

東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連帯し「民医連ここにおい」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 38 2011.4.20 17:30 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren.gr.jp

◆福島民医連と今後の支援のあり方を協議◆

4/17～18、長瀬事務局長・大河原次長・林次長が現地に入り、地元の方との懇談や避難所訪問を行い、福島への今後の支援について協議しました。県連対策本部を確立して県全体を視野に入れた活動を行っていきます。

＜原発事故対応＞

* 川俣町・山木屋地区、飯舘村は5月11日までに避難指示が出されています。住民の健康不安が強く、「政治家や学者の話ではなく、医師の話が聞きたい！」という声が上がっているそうです。議員を通じて住民学習相談会を要請されており、4/23(土)、齋藤紀医師と松本福島県連会長が出席して学習相談会を実施することになりました。

* 川俣町に近い「いいの診療所」、また郡山市も放射能濃度が高く、生協組合員・住民の不安が募っています。医療生協組合員も多いので、組合員・住民対象に学習会を検討中です。

* このような地域の状況を受けて、今月末、緊急被曝対策本部会議を福島で開催する方向で検討しています

＜小名浜支援＞

水がやっと復旧し、今後は、組合員訪問、地域訪問を今後本格的に行います。また、1小学校区の避難所を行政から任されたこともあり、看護師支援を引き続き行っています。

＜南相馬への精神科派遣＞

福島県立医大の精神科教授から、5月連休以降の診療支援を要請されています。市立相馬病院の1部屋を使って診療、および巡回診療を行う方向で、具体化されつつあります。

＜避難所対応＞

郡山の避難所「ビッグパレット」(コンベンションホール)の環境は非常に劣悪です(これまで見た、どの避難所よりひどい！と某次長)。約1600人が避難されており、ノロウイルスなどの感染症が発生しています。避難されている方々、とりわけ高齢者の健康悪化が心配されます。急ぎ、現地事業所から視察に入って実態を把握し、行政への申し入れを行い、改善していく必要があります。

原発問題を抱えており、情勢の変化に応じて住民の不安や複雑な気持ちに寄り添いながらの支援となります。長期的な支援が必要です。今後、支援内容が具体的にあり次第、発信していきます。

全日本民医連HP 東日本大震災のページをご活用ください

重要な方針、学習資料がアップされています。過去のニュースもみることができます。ぜひご活用下さい。

＜対策本部情報＞

◇理事会決定・全日本民医連は東日本大震災・原発事故にどのように立ち向かったか(4/19)

◇2011年5月～支援人数(4/19)

＜福島原発事故関連＞

◇福島第一原発事故の避難地域および周辺地域の住民が受診されたときの医療対応のあり方について(4/9)

◇「正確に学ぶ放射線・人体への影響」講演録【齋藤紀医師】

支援者到達 (20日現在) : 2,168人 (医師343、薬剤師124、看護師612、技術系440、事務他649)

本日の支援者数は (移動含む) 235人。延べ数は10,249人となりました！

支援募金到達 : 1億9600万円を超えました！ (医療福祉生協連とあわせると2億6千万を超えています)

◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

★状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。